

小平中央公園鳥類調査報告書

2013年3月25日

井の頭バードリサーチ 高野丈

調査実施日時：2013年2月9日

天候：晴れ

調査員：どんぐりの会、井の頭バードリサーチ

調査地：小平中央公園および玉川上水

調査方法：スポットセンサス

調査定点：うさぎ橋、中央公園雑木林上水側、奥側、津田塾大遊歩道、津田塾大南

1. 全観察種（17種）

留鳥（一部漂鳥）：アオゲラ、ウグイス、エナガ、カワセミ、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ヤマガラ

冬鳥：キクイタダキ、ツグミ、ヒガラ

外来鳥：ソウシチョウ

2. 各定点での出現率および総合出現率

a. うさぎ橋

Ct 数

ウグイス	3	8.3%
シジュウカラ	11	30.6%
エナガ	3	8.3%
ハシボソガラス	9	25.0%
ハシブトガラス	4	11.1%
メジロ	1	2.8%
ムクドリ	2	5.6%
ヒヨドリ	1	2.8%
キジバト	2	5.6%
	36	100.0%

b. 雑木林上水側

Ct 数

ヤマガラ	16	30.8%
シジュウカラ	16	30.8%
キクイタダキ	15	28.8%
メジロ	1	1.9%
コゲラ	2	3.8%
ツグミ	1	1.9%
ヒヨドリ	1	1.9%
	52	100.0%

総合出現率

アオゲラ	7	3.6%
ウグイス	3	1.5%
エナガ	21	10.7%
カワセミ	4	2.0%
キクイタダキ	15	7.7%
キジバト	4	2.0%
コゲラ	15	7.7%
シジュウカラ	48	24.5%
ソウシチョウ	2	1.0%
ツグミ	1	0.5%
ハシブトガラス	8	4.1%
ハシボソガラス	9	4.6%
ヒガラ	4	2.0%
ヒヨドリ	8	4.1%
ムクドリ	2	1.0%
メジロ	10	5.1%
ヤマガラ	35	17.9%
	196	100.0%

c.雑木林奥側		Ct 数
ヤマガラ	15	38.5%
シジュウカラ	10	25.6%
アオゲラ	7	17.9%
キジバト	2	5.1%
メジロ	3	7.7%
ハシブトガラス	1	2.6%
コゲラ	1	2.6%
		39
		100.0%
d.津田塾遊歩道		Ct 数
エナガ	18	34.0%
シジュウカラ	10	18.9%
コゲラ	11	20.8%
ヤマガラ	4	7.5%
ソウシチョウ	2	3.8%
メジロ	4	7.5%
ヒガラ	4	7.5%
		53
		100.0%
e.津田塾大南		Ct 数
カワセミ	4	25.0%
シジュウカラ	1	6.3%
ヒヨドリ	6	37.5%
ハシブトガラス	3	18.8%
メジロ	1	6.3%
コゲラ	1	6.3%
		16
		100.0%

※太字は冬鳥

3. 調査結果について

- a. 調査定点 5 カ所の内、2 カ所で冬鳥(キクイタダキ、ツグミ、ヒガラ)を確認。小平中央公園は冬鳥が越冬、あるいは立ち寄って休息する越冬地・中継地であることを示している。
- b. 留鳥・冬鳥共に、雑木林での観察種・個体数が多かった。
- c. キクイタダキが雑木林の上水側に多かったのはヒノキ林があるため。キクイタダキは針葉樹林をハビタットとする。昆虫のヒグラシも針葉樹林を好む傾向が強い。
- d. 冬鳥の大形ツグミ類が少ない傾向がある。これは雑木林の樹種や管理に関係していると

考えられる。すなわち、ミズキ、エノキ、ムクノキなどこれら鳥類が冬季に食糧とする果実が実る樹種が少なく、また落ち葉を残していないことから、昆虫類の卵、幼虫など動物性の食糧源についても地上に乏しいからである。今後、雑木林の更新や管理については生物多様性保全の観点から計画的になされることが望ましいと考える。

- e. 外来鳥のソウシチョウが確認されており、今後注意が必要。
- f. 当地の環境を評価するには調査回数・頻度を増やし、数年間のモニタリングなどの追加調査をすることが必要。

以上